

阪本啓一

さかもとけいいち: マーケティング・コンサルタント。大阪大学卒業後、旭化成を経て、独立。渡米し、ニューヨークでコンサルティング会社「Palmtree Inc.」を設立、現在同社CEO。著書「スロウなビジネスに帰れ」(小社)「パーミッション・マーケティングの未来」(翔泳社) 訳書など多数。

 www.palmtr.com
surf@palmtr.com

● Business

Society ●

● Design

仕事をアートにしよう

「仕事って何？」

早起きなので、毎朝、日の出を観察するのが習慣になっている。太陽は同じなのに、毎朝表情が違うのが興味深い。その時々自分の内面を反映しているのだろうか。いずれにしても、上空に昇り切ると、太陽は、迷いなど一切をふりきり、堂々と威厳に溢れ、「さあ、いろいろあるが、今日も一日、しっかり仕事するぞ」と、きっぱり断言して仕事にかかる。夏など、特にこの「きっぱり」度が高いように思う。そして、私も、自らの仕事にとりかかるのである。

ある朝、ふと、「仕事って何？」という疑問が湧いた。すぐに浮かんだのは現在取り組んでいる書き下ろしのことや、仕掛り中の翻訳、進行中のクライアントのプロジェクト、週末に控えたセミナーなどだが、いや、待てよ、と踏みとどまった。それらは仕事のメニューであって、「何？」という本質の答えにはなっていない。仕事って何？ 何のためにするの？

あなたにとって、仕事とは何だろう。その仕事で成功するとは、どんなことなのだろう。売上がもっと上がること？ 顧客の数が増えること？ 利益をばんばん出して、ボーナスが増えること？ 市場シェアが増大すること？ 競合相手を打ち負かすこと？

いずれも、「ちょっと違う」気がしないだろうか。

笑顔を作る仕事

幼稚園の時、チョコレートの懸賞で、鉄腕アトムアニメーションフィルムの切れ端が当たった。家には映写機などないから、部屋を暗くし、懐中電灯で壁に映した。動きもなにもなく、ただ大きなアトムが映っているだけだが、わくわくした。嬉しかった。アニメを作る仕事か？ と思った。その時の私は、最高の笑顔をしていたことだろう。

ある誕生日、友達にプレゼントをもらった。家に帰り、母と一緒に箱を開けたら、オルゴールが出てきた。母一人子一人の母子家庭で奮闘していた母、普段はまるで「おっさん」だったのだが、この時見せた笑顔は、私が生まれて初めて見るかわいさだった。陳腐な表現だが、少女のようだった。

長じてメーカーに就職したのはこういふ「笑顔を作るモノ作りへの憧れ」原体験が背景にあると思う。アニメはソフトだが、私は、ハードなモノ作りを生業とするメカ

ーに入った。製品にソフトの持つ楽しさを加えられればいいや、と考えていた。

配属先は建材部門、壁パネルの営業だ。家が完成してからお伺いすることが、たまにある。壁に家族の写真が飾ってあったり、玄関脇でスノーボードが無造作に立てかけてあったりすると、自分の販売した「壁」が、その家族の役に立っているという手ごたえを受け、やりがいを感じたものだった。顧客の笑顔を作るモノ作りに携わっている充実感が、あった。

そして現在、私はマーケティング・コンサルタントとして、笑顔を増やす仕事のお手伝いをしている。今取り組んでいる、あるクライアントのプロジェクトチーム内の合言葉は「朝会社に行くのが楽しくて仕方ないようにするサービスを作ろう!」だ。

マーケティングは笑顔の触媒

マーケティングは、もっと商品を買ってください、もっと高く買ってくださいと、顧客を「操作」するものではない。そうではなく、「商品企画者が伝えたい価値を正しく伝え、その結果顧客をハッピーにする触媒」である。そう、笑顔の触媒だ。

仕事はアート

現在私はニューヨークに住んでいるが、日本人がここでサバイバルするのは容易なことではない。お金もかかるし、ビザ問題、生活習慣の違いなど、悩みは一杯ある。そんなサバイバルにほとほと疲れた友人がいた。彼女は、もう、日本に帰ろうと決心した。その日の夕方、ヤンキースタジアムにイチローを観に行ったら、全くのミーハー気分で行ったのだが、帰ってきたら、勢い込んで私に電話してきた。「日本に帰るの、やめた。ここでまた頑張る」。聞けば、イチローもああして頑張っているのだから、という。イチローの仕事は野球だが、しかし、これはメニューでしかない。本質は、「勇気をくれた」のだ。そう。どんな仕事であれ、アートになり得る。アートは、人に勇気を与え、笑顔を生み出す力を持っている。

あなたが就いている仕事は何であってもいい。アートにしよう。その仕事に触れた人に勇気を与え、笑顔を増やす、そんなアート。

疲れたら、早起きして、昇る太陽を見てみよう。きっと大きな勇気をくれるはずだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp